

## なぜトリートメントセンターに 根管治療機能をビルトインすべきなのか？

それは、根管治療のプロセスがデンタルユニット上で行われるからです。

根管治療はリスクを伴う複雑な治療です。そして初期診断から治療計画、治療、修復のすべてのプロセスがデンタルユニット上で行われ、多くの時間と労力を必要とする治療です。また、長期間・長時間をする治療は、医療チームだけでなく、患者さんにも負担が掛かります。だからこそ、デンタルユニットはより正確に、より安全に、効率的に臨床ワークフローをサポートし、術者と患者さんの快適性を向上させる存在であること、と考え、デンツプライシロナでは根管治療機能をデンタルユニットに統合させました。

### トリートメントセンターがもたらす、根管治療のメリットとは？

#### ■ 診断と治療計画

- 透明な患者コミュニケーションのためのSIDEXISとシビジョンモニター
- 口腔内カメラやX線画像による診断と症例の説明
- 治療方針の受諾と理解促進

#### ■ 治療

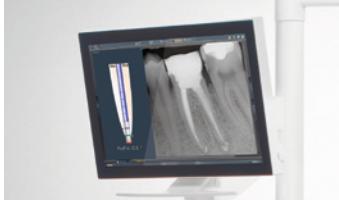
- 長時間の治療でも患者さんは疲れにくい、水に浮いたような楽な姿勢
- 血流を阻害せず、筋肉・関節のベストバランスと隙間を生まない背骨や腰部に沿ったシート
- 患者さんが快適だからこそ、術者は治療に専念

#### ■ 治療

- 頸椎を支えるモータードライブヘッドレスト
  - 術者と患者さん双方に快適なポジショニングが可能な電動調整機能
  - 頸椎を保護し患者さんは長時間の治療でも疲れにくい

#### ■ 治療

- ファイルライブラリーを含む根管治療機能
  - 音とメーターで知らせるアペックスロケーター
  - オートストップ・オートリバースによる安全性
  - 12社35ファイルシステムのライブラリーと正確なトルクと回転数の制御
  - レシプロケーティングモーションによる根管形成拡大の効率性



デンツプライシロナでは根管治療に欠かせないソリューションを提供しています。

歯科用CT  
オーソフォスシリーズ

ユニットビルトイン  
根管治療機能

卓上型根管拡大装置  
X-SMART IQ

根管拡大形成用ファイル  
ウェーブ・ワン ゴールド

一般的名称:歯科用ユニット 販売名:シロナ SINIUS 認証番号:224AABZ100065000 管理医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器  
一般的名称:歯科用根管拡大装置 販売名:X-Sマート IQ 認証番号:229AGBX00094000 特管  
一般的名称:電動式歯科用ファイル 販売名:ウェーブ・ワン ゴールド 医療機器認証番号:227AGBX00033000 管理

### デンツプライシロナ株式会社

本社／〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10 麻布偕成ビル

#### 支店・営業所

■ 札幌支店 Tel:011-709-5800	■ 広島支店 Tel:082-546-2301
■ 仙台支店 Tel:022-266-4020	■ 福岡支店 Tel:092-518-1800
■ 東京支店 Tel:03-5148-7895	■ 盛岡営業所 Tel:019-604-2340
■ 横浜支店 Tel:045-440-1521	■ 庄内営業所 Tel:0235-29-1217
■ 名古屋支店 Tel:052-251-8467	■ 埼玉営業所 Tel:048-799-2931
■ 大阪支店 Tel:06-6243-6636	■ 静岡営業所 Tel:054-653-2711

BT 6309PD

# TREATMENT CENTERS REPORT.

2019. March

秋田県秋田市 港町歯科クリニック

院長 佐藤 暢也 先生



## 専門医にとって必要な「モノ」とは

秋田県秋田市 | 港町歯科クリニック | 院長 佐藤 暢也 先生

先代が1951年に秋田県横手市で開業し、その屋号である「東京堂」を受け継いだ「医療法人東京堂 港町歯科クリニック」。院長である佐藤暢也(さとう のぶや)先生は、現在の地での開業から30年以上が経つ。時代の変化と共に先進の医療を提供し続け、中でも歯内療法分野においては日本屈指のエキスパートである。この30年間、歯科領域では、審美、インプラント、ペリオ、咬合と、幾つかのフォーカスとその振り戻しがあった。時代の変化において、佐藤先生が見てきたもの、行きついたもの、これからの潮流について伺った。

歯内療法分野では専門医・指導医としてご活躍されていますが、これまでの診療分野の変容をお聞かせください。

最初から歯内療法を取り組んでいたわけではなく、もちろん一般歯科として虫歯を沢山削ってきました(笑)。その後、矯正、デンチャー、インプラントなど、治療オプションを増やしてきたので、当時は本当に毎日学ぶことが多くて大変でした。そして、10年も続けていれば、治療した歯がカリエスやペリオになることが起り、ヘルスケアに重点を置いた診療を取り入れてきました。

その過程で、やはり歯内療法というのは奥

が深くて難しい、とつくづく感じました。そこで1992年に恩師である故・大谷満先生(大谷歯内療法研修会)に師事し、本格的に勉強を始めました。1985年に大学を卒業~1988年に開業~1992年にエンドの世界へ。専門の分野としては1995年からインプラント治療を始め、1998~99年には予防歯科へシフトしつつ、並行して歯内療法を続けていました。

インプラント治療と歯内療法を同時に展開されたのですね。

私の基本的なスタンスは「欠損部があるところにインプラント治療をする」「残っている歯はできる限り長持ちさせる」です。自分の歯を長持ちさせることができるので、あくまでもインプラント治療は欠損部分を補うための手段です。秋田では早くからインプラント治療を導入したので、患者さんは多かったです。しかし、不用意に抜歯するのではなく、抜歯せざるを得ない、またはすでに欠損している部分にインプラント治療をしまし

た。とともに、インプラント治療と歯内療法の接点は何か?と考えるようになったのです。そして「抜歯するか、保存するか」の判断基準は歯内療法領域で検討すべき、という答えに至りました。なぜなら、全ての治療は歯内療法の根治がキーとなり、逆に言えば根治が完了しないと他の治療が進まない、根治不可となって初めてインプラント治療という選択肢が生まれる、という視点ですね。アメリカにおいても、基本的な考え方として歯内療法専門医が抜歯について判断しているので、自分の考えは正しかった、と悟った時期がありました。インプラント治療を取り入れた時期は、並行して約20年間ほぼ毎年、米国歯内療法学会(AAE)に参加し、情報のアップデート、リニューアルをしてきました。

ビルトインされたエンド機能に期待したこと?

「快適性 / Comfortable」「効率性 / Efficiency」「正確性/Accuracy」「簡便な操作性/Easy」の4点です。いずれも、術者、患者さん、双方にとって必要なポイントです。

当時の歯内療法と現在に違いはありますか?

歴史的に見ると、器材の違いがあります。例えばニッケルチタンファイル、根管長測定器、マイクロスコープ、でしょうか。また、最近の10年を見ると、日本の歯内療法はだいぶ整理され、分かりやすくなつたのではないかと思います。器材でいえば、以前からシーメンスのユニットを使用してきましたので、その快適性は非常に気に入っていましたが、Siniusはエンド機能をビルトインすることが可能と聞き、ユニットを入れ替え導入する際の大きな決め手となりました。

機械的な根管形成が正確にできること、次に形成、洗浄、充填のクオリティを保つこと、そのためには先ず、術者にとっての疲労=肉体的、精神的に負荷があつてはなりません。エンド機能がビルトインされたSiniusにより、これらの負荷が確実に軽減され、治療クオリティが格段に上がります。ハンドファイルと比べると疲労感は全く違う。さらに、オートストップ・オートリバースがあることの安心感、そして、根尖に近づくにつれて音が変わってくるので、モニター画面、手指感覚に加えて音でも確認できます。ビルトインされているエンド機能を使い始めたら従来の方法ではやりたくくなってしまう、そのくらい便利で使い勝手が良いです。今やこれが無くなつたら歯科医師として生きていけないでしょう(笑)。加えて、ある程度年配の先生には是非お勧めしたいです。楽できますよ、と。スタッフにとっては、外付けの器械を準備する/片づける必要が無くなるということは、落として壊す、電池が切れる、という物的ロス、

心的ロス、時間的ロスが無くなります。また、感染予防が重要になりますので、ユニットの水回路をきれいにする水清浄機能も気に入っています。

歯内療法分野におけるデンツプライシロナの役割は?

3年前、2社の合併で誕生したデンツプライシロナのソリューションの中で、最も相乗効果が発揮されているのが歯内療法分野ではないでしょうか。デンツプライシロナのファイルとシロナのデンタルユニットがタッグを組み、本当に素晴らしいモノを生み出してくれたと思います。ライブラリの種類も豊富ですし、未来のアップデートも可能です。欲をいえば、(iPadを使用した)X-スマート IQの様に、個別に記録機能があれば、大学教育のような現場ではより重宝するのではないかでしょうか。

歯科領域に限らず「専門分野」と聞くと、その分野においては優れていますが、その他の分野における力量には少なからず疑問を抱いてしまいがちです。佐藤先生の「専門分野」には、それまでに至る理由と道筋があった。多くの分野においてエキスパートであるが故に「最後の砦」である歯内療法分野がより光を放っていたのだ。器械類に置き換えると、機能一つを論じるのではなく「存在に理由があるもの」こそが優れた器械なのだ、と感じた。



秋田県秋田市 港町歯科クリニック  
院長 佐藤 暢也 先生  
(プロフィール)  
1985年 北海道大学歯学部卒  
1985年 札幌市 医療法人仁友会 日之出歯科診療所勤務  
1988年 秋田市にて港町歯科クリニック開設  
米国歯内療法学会(AAE) Specialist Member  
日本歯内療法学会 指導医  
日本歯内療法学会・認定研修施設長(指導医)  
日本口腔インプラント学会 専門医  
東北大歯学部 歯科保存学分野 非常勤講師  
秋田インプラント研究会 会長



デンツプライシロナ製品に抱かれている印象は?

まさに「食べログ」でいうところの4.8(笑)。ただ美味しい、ただお腹いっぱいになるのではなく、洗練、デザイン、使用感、スタイルまでをも提供している印象です。そして特定の機能を押し付けてくるのではなく、術者に寄りそう「フレーバースタイル」な感じが心地よいですね。「専門は○○だから専門の○○を用意しなくてはいけない」ではなく、「デンツプライシロナがあるから○○を専門にできる」。これこそ私にとっての理想であり、デンツプライシロナ製品のおかげで今の仕事が成り立っていると思います。

